



国民の森林・国有林

森林・林業基本計画の変更にかかる 地方意見交換会を開催

林業の成長産業化のために

1月21日、九州森林管理局大会議室において、森林・林業基本計画の変更にあたって、国民各界各層の幅広い意見を計画に反映していくため、九州ブロックの「森林・林業基本計画の変更にかかる地方意見交換会」が開かれました。

当計画は、森林及び林業に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民生活の安定及び国民経済の健全な発展を図るための基本指針を示すもので、来年度の森林・林業基本計画の変更について、①林野庁から林政審議会における議論などを紹介する

とともに、②森林・林業関係者などから意見聴取を行うものです。冒頭、本郷浩二林野庁森林整備部長から「地域の資源を活用し、林業が持続的に雇用と所得を確保できるように林業の成長産業化に取り組んでいる。また

林業の成長産業化は、国が掲げる地方創生や1億総活躍につながる取り組みであり、是非成し遂げたい。本日は林業の成長産業化を始め、さまざまな意見などをいただきました」とのあいさつの後、



森林・林業基本計画にかかる意見交換会参加の皆さん

林業は大きく変化している。その中で、今回の計画変更は国有林のあり方を再度確認する良い機会であり、本日はいただいた意見などに国有林として対応していきたい」とのあいさつがありました。

意見発表者は、市町村長、森林組合、素材生産・苗木業者などの林業関係者、製材業者、工務店・住宅メーカーなどの住宅産業関係者、学識経験者であり、各分野（林業、木材産業、住宅産業、学識経験者、行政）からみた森林・林業の現状や課題、新たに取り組んでいることなどを織り交ぜながら、次期基本計画に対する要望・意見を発表し、それぞれに活発な質疑応答が行われました。

【意見発表者と主題】

- 工藤秀一「熊本県山都町町長」
 - ・ 深刻化するシカ被害対策
 - ・ 確実な再造林の実施と支援
- 川村晃「大分森林組合連合会代表理事専務」
 - ・ 森林組合系統の素材生産と再造林への取り組み
- 日高勝三郎「宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会会長」
 - ・ ニースに応じた原木の安定供給
- 林雅文「㈱伊万里木材市場代表取締役社長」
 - ・ サプライチェーンで新需要
- 久原英司「㈱エバーフィールド代表取締役」
 - ・ 地域工務店の地域材利用
- 久津輪光一「池見林産工業㈱代表取締役社長」
 - ・ 需要を切り開くこそが、林業活性化への道筋
- 羽田誠次「熊本県樹苗協同組合理事長」
 - ・ 安心して種苗生産を続けるために
- 寺岡行雄「鹿児島大学農学部生物環境学科教授」
 - ・ 高収入型林業経営の構築に向けて

(担当)企画調整課



意見を交わす参加者

『第4回奄美群島森林生態系保護地域 保全管理委員会』を奄美市で開催

12月22日、「第4回奄美群島森林生態系保護地域保全管理委員会」を奄美市において開きました。当委員会は学識経験者や地元関係者らにより構成されており、2013年度からこれまで3回開いています。

森林生態系保護地域は、現在取り組みが進められている世界自然遺産の登録に必要な法的保護担保措置となっています。今回の委員会は、その森林生態系保護地域の「保全管理計画」の最終とりまとめ(案)を提示し



保全管理委員会で議論を交わす委員の皆さん

検討を行うということから、メディアの関心も高く、新聞やテレビが多数取材に来ていました。また、今回の委員会で、奄美群島で行っている保護林モニタリング調査やスギ人工林の広葉樹林復元の検討などの業務についての



現地で検討を重ねる委員ら

情報提供も行いました。委員の方々からは、「最終とりまとめ(案)については、希少種の保全が重要だということが分かるように記述をした方がよい」といった意見やその他、用語などに関する意見がありました。また、情報提供を行ったスギ人工林の広葉樹林復元の検討においては、前日にスギ人工林の現地検討会を開き、委員の方々に現地を見ていただいていたため、具体的なイメージを共有することができ、有意義な議論を交わすことができました。

保全管理計画については、委員などからの意見や助言を整理して最終とりまとめを行い、本年度中に策定することとしています。

(担当：計画課)

二つのプログラムで森林教室

【都城支署】 都城市役所森林保全課からの要請を受け、地域企業の協力をいただき、霧島国有林において、沖水小学校みどりの少年団に森林教室を実施。

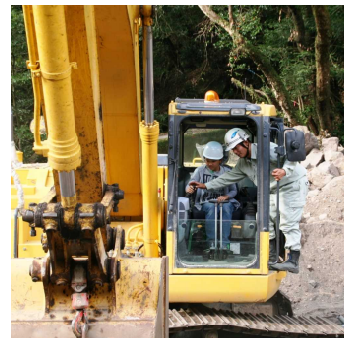
今回は、「治山事業について」と「収穫調査及び樹木の二酸化炭素吸収量」の2つのプログラムを行いました。

「治山事業について」のプログラムでは、治山ダムの役割や工法などの概要について説明を行い、治山ダムを目の前にしての説明を受けた児童らは真剣な



夢中で測量機器を覗き込む児童

夢中で測量機器を覗き込む児童。次いで、「収穫調査及び二酸化炭素吸収量」では、二等辺三角定規で、簡単に高さを求めることができることに感動の声が上がる。とともに、胸高直径から大人一人が一年間に出す二酸化炭素量に対し、何本の木が必要になるかわかると驚きの声が上がっていました。



重機の試乗を体験

眼差しで聞いていました。また、重機の試乗体験、光波測量では普段触れることのない機器の操作方法や測量方法を体験。児童らは「もう一度やりたい」と、興味を示していました。

報道関係者へ現地説明会

【宮崎森林管理署】宮崎市一ツ葉海岸林の国有林において、報道関係者を対象に、当署が取り組んでいる海岸林の整備状況や整備方針について現地説明会を行いました。

当日は民放2局、地元新聞社1社が参加の下、はじめに古庄誠司総括治山技術官が当署のこ



私は一昨年の春、夫の転勤により宮崎県に引っ越してきました。初めの一年を小林市で過ごし、二年目は宮崎市で過ごしています。九州での生活は初めてで、驚きの連続でした。中でも一番驚いたのは、森林と火山の多さです。高速道路が山々の間を縫って走っていることにも驚



川村 淑恵さん

れまで実施してきた「松くい虫被害対策」や「防災林としての機能向上に向けた取り組み」などを説明し、その後、業者による松くい虫被害木処理（伐倒玉切り、薬剤散布までの一連の作業）を行いました。

特に今期、宮崎市内の海岸林における松くい虫被害は、昨年度被害本数を既に上回る被害が拡大しており、地域の関心も高

いたようです。関西の新興住宅地で育った私にとって、山や森林は非日常のものでした。登山経験も学校行事で参加した程度だったので、山に囲まれる生活は癒しを感じるとともに、生まれて初めて火山への恐れを抱きました。

このよ
うなこ
とを言
うと
日夜、日
本林業の

ために尽力されている方々の反感を買うかも知れませんが、国有林事業も、モニターの募集で初めて知ったほどです。国有林モニターをするまでは、森のイメージは「となりのトトロ」や「もののけ姫」の世界で、サルやシカ、イノシシは動物園で見

いことから、説明会終了後は「松食い虫被害が拡大した原因は何か」、「私たちの生活にどのような影響があるのか」、「今後、森林管理署はどのような対策を講じるのか」などの質問がありました。

これに対し、署は、「被害拡大の原因は明確ではないが、近年の気温上昇などによる環境変化や塩害などによる影響でマツ

かし、霧島連山の麓で、水や温泉などの山からの恵みを受けて生活する中で、森林はもっと身近なもので生活に直結していると感じられるようになりました。残念ながら日本には、以前の私のように、森林に無関心な人がまだまだ多くいるのではないか

と思います。

毎月発行される広報を見てみると、九州局管内で実施されている森林環境教育は実に多彩な内容だと感じます。九州で育つ子どもは、幼い頃から身近な森を通して森林について考え、体験する機会に恵まれています。しかし、子どもは整備された都

の樹勢が低下したことから松くい虫の被害が拡大したのではないかと推測される。また、海岸林の衰退により、内陸では海からの潮や飛砂などを直接受けることとなるため、私たちの生活に直結し悪影響がおよぶことになる。署としては宮崎県や市町

などと連携し、手を緩めることなく、松くい虫防除対策、クロマツをはじめとした健全な海岸

市部や住宅地にもいます。身近に森林を感じることもなく、木に触れることも数少ないでしょう。そんな子どもたちが大人になり、いきなり環境問題を考えようとしても、他人事になるのではないかと、今年で四歳になる娘を持つ私は心配しています。

みどり豊かな九州

林業素
人の私
は、国
有林
事業
を理
解す
る

には相当な時間がかかりそうです。しかし、自分なりに日々の生活と森林を繋げて考え、身近なことから環境について考えたいです。何かの縁で与えられたみどり豊かな九州での生活と、国有林モニターの経験を、有意義に過ごしたいと思っています。

(宮崎県宮崎市在住)

林整備などの対策を継続していく」と応えました。

なお、この内容は、テレビで放映されたとともに、新聞に掲載されたところで

当署では、今後も国有林事業の取り組みについて、各方面へPRを展開することとしてい

*一ツ葉海岸は宮崎県に面した海岸林で、その規模は南北に約12km、最大幅約1km、約8300ha(うち国有林面積約500ha)で、松を主体とした林帯を呈している。内陸の住宅地や農耕地、商業施設を飛砂や潮害などから守る機能を果たす一方、一部は県立森林公園に指定されるなど、美しい景観を有し市民の憩いの場、保健の場として重要な役割を果たしている。



記者の質問に応える職員

平成27年度第3回 国有林材供給調整検討委員会を開催

12月9日に本年度3回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しないが、中長期的には供給増が必要である」との結論になりました。

委員からは、「素材生産事業者は、人手不足や補助金の縮減などのさまざまなリスクを考えたが加工側と情報交換をしつつ、仕事をしようになった。」



検討を重ねる供給調整検討委員の皆さん

隣接県も含めた安定的な供給が必要である。／主伐箇所からはA材と大径材が出てくるが需要がない。川上の低コスト化ばかりではなく、この問題を解決しないといけない。今は需要もそれなりにあり、供給調整は必要ない。／システム販売のような価格を決めた売り方が民有林でも増えてきた。国有林材の調整の必要はないが、中長期的には丸太の供給を増やすべきで、増産の体制を計画的に進めていくべき。／暖冬の影響もあり、例年より丸太の出材が増えてきそうである。製材工場は忙しさにピークも谷もなく、だからだと操業が続いている。年明けも急に下がることはないと思われ、国有林材の供給調整は必要ない。／住宅建築は、ハウスメーカーに安定的に仕事があり活発な状況、一方工務店や材木店は仕事がなく2極化が進んでいる。丸太の生産量も増えてきており、国有林材の供給は計画通り行うべきである。

／国産合板のシェアは、違法伐採対応による輸入減から48%から50%超えとなった。フロアー用合板も伸びてきており、国有林材は、セーフティに材材を行ってほしい。／チップ原木は在庫があり、今は足りているが、必要量に対して今後不足が見込まれる。国有林材の供給については、安定的な立木の公売を継続してほしい。などの意見が出されました。

（委員会概要は局ホームページに掲載）
（担当）地域木材情報分析官

『採材研修』を開催

【熊本南部森林管理署】大畑国有林において、素材生産業者や製材業、流通業、森林組合、県・市町村の林務関係職員ら約70人が参加して「採材検討会」を行いました。

当検討会は、市場のニーズなどに応じた有利採材を行うため、毎年開いているものです。今回の検討会は、これまで当署で行っている各種検討会参加者の方々に、検討会の実施内容などについてアンケート調査の結果を踏まえ行いました。

検討会は、川上・川中・川下の3グループに分かれて実施。



グループに分かれ検討する参加者

それぞれの立場で採材を行い、その考えや結果を共有することで、今後の有利採材に繋がります。川上から川下まで含めたトータル的な知識・技術向上に役立つように計画しました。

検討会終了後、再度参加者にアンケート調査を行ったところ、「素材生産者・製材者との意思統一ができた。関係者が一同に介しての検討会が有意義だった」と感想が寄せられました。特に、役立度、満足度は30ポイント程度アップし、各種検討会を企画・実施するにあたっての、大変貴重なものとなりました。当署では今後も、民国連携を推進しつつ、森林・林業の再生、地域振興に向け取り組むこととしていきます。

清掃活動に汗

【宮崎南部森林管理署】串間市の市木地区自治会主催による「市木浜クリーン作戦」が、地元住民や関係自治体など約260人が参加して行われました。市木浜は「なぎさ百選」に選ばれ、また、目の前に野生猿で有名な「幸福島」があり、日南海岸の中でも美しい砂浜が広がる海岸です。

当日は、九州地方にも大寒波が押し寄せ、ここ南国宮崎でも珍しく雪の降る中での作業となりました。当署からは地元森林官をはじめ7人の職員が参加し、海岸に漂着したペットボトルやビニールなどを拾い集め、清掃活動に汗を流し、きれいになった海岸を後にしました。



清掃活動に汗を流す参加の皆さん

平成28年度「国有林モニター」募集

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、また御意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、平成28年度「国有林モニター」を下記のとおり募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

記

【募集人数】 60名程度(各地域で均衡を図るため、最終的な人数と前後することがあります。)

【依頼期間】 平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年間)

【依頼内容】

- ・ 森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答(匿名にて公表することがあります)
- ・ 森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
- ・ 国有林モニター会議への出席(年1～2回、希望者のうち一定数)

※弊局の広報誌など、国有林に関する資料を定期的にお送りします。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上(平成28年4月1日現在)の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。

※ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長、常勤の国家公務員、国有林野事業職員0B、森林・林業担当の自治体職員並びに平成27年度に国有林モニターであった方は除かせていただきます。

【応募方法】

下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で、以下の宛先まで御応募ください。御不明な点につきましては、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号 九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当

TEL: 096-328-3511 FAX: 096-328-3643 E-mail: ky_kikaku@maff.go.jp

【必要事項】

- ・ 氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、電話番号、メールアドレス(ございましたら)
- ・ 国有林モニターを知ったきっかけ(具体的に記入)
- ・ 国有林モニターに応募された理由(100字程度)

※ご応募いただいた個人情報、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承願います。

【募集期限】

平成28年2月29日(月)(当日消印有効)

【発表】

- ・ 選考結果は、平成28年3月末日までに依頼状の発送をもってお知らせいたします。
- ・ 依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。

※選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承下さい。



問い合わせ先

九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター 担当: 田中、埜村

TEL: 096-328-3511

FAX: 096-328-3643

感染症対策について講和

自主健康管理推進月間の行事として、1月15日、局大会議室において「できる！感染症たいさく！〜働く世代の皆様へ〜」と題した衛生講話を開き、多数の職員が参加しました。

講話では、講師の熊本市保健所感染症対策課泉真理子氏より、インフルエンザ・感染性胃腸炎・エイズなどの感染症について、それぞれの予防対策や感染した



講和に耳を傾ける職員



講師の泉さん
(熊本市保健所)

場合の対処法などについて、詳しく話していただきました。インフルエンザの対策では、手洗い・アルコール消毒・マスク着用・予防接種などが有効、感染した場合は、早めに医療機関を受診し、抗インフルエンザ薬を

服用する。
感染性胃腸炎では、ノロウイルスによるものが多く、嘔吐・下痢の症状が出る。嘔吐物などの処理の際は、マスク・手袋などを着用し、消毒には塩素系消毒剤を使用する。
エイズについては、日本では感染者数が増えている。HIV感染は血液検査でわかることから、保健所で抗体検査を無料で受けることができるなど、実践に即した内容に、職員も真剣に聞き入っていました。

この講話が、職員皆さんの健康管理の一助になり、健康で明るい職場づくりに繋がれば幸いです。
(担当)総務課

人のうごき

1月18日付森林管理局長発令
宮崎署事務管理官

水野 美香 (宮崎署)

熊本南部署地域技術官

長友 清文 (熊本南部署)

(担当)総務課



暖帯の山林で普通に見られる亜高木の常緑樹です。葉は対生または少しずれた互生につき、2列互生に付くことが多いです。葉身は革質、全縁で縁は波状、両面無毛、裏面は粉白色となっています。

ニッケイの名前が付いているとおり葉を揉んで嗅ぐと良い匂いがします。しかしニッケイほどは強くないことから、名前の頭にヤブが付いています。植物の名前は本物に対して劣るときにヤブとかイヌの言葉が名前の前につきます。

100 ヤブニッケイ (クスノキ科)

似ているヤブニッケイとシロタモは、冬芽の観察によって毛がありシロタモ、毛なしがヤブニッケイと区別します。クスノキとの区別は主脈と支脈の交点にタニ室がないのがヤブニッケイです。ニッケイとの区別は、ヤブニッケイの葉幅が狭く葉先が尾状に長く伸びていないことで区別できます。

世界自然遺産の小笠原で固有種のカサワラヤブニッケイを観察しましたが違いは認められませんでした。調べたらヤブニッケイと変わらないとする説が有力のようです (保育社)。



今年の冬は暖冬で、このまま春が来るのかと思っていたら、記録的な寒波がやって来た▼自宅前でも積雪が見られ、一面の雪景色を久しぶりに見ることもなった▼交通機関などへの影響も大きく、空港などで途方に暮れる人達がニュースで映し出されていた▼なかでも一番驚いたのは、鹿児島県・奄美大島で15年ぶりに雪が降ったことである▼15年ぶりといえば、日本最高齢の方の年齢が115歳ということからすれば、奄美大島の雪は実際にその目を見た人はいないと言えるかもしれない▼奄美の人の話で「奄美に降った雪は写真で見ただけはあるが、実際に見たのは初めて」というのも頷ける▼また、今回は雪だけでなく、気温も記録的に低く、各地で過去最低気温を更新していた▼その影響で、水道管の凍結や破裂による断水も各地で発生し、自衛隊の出勤もあっていた▼この寒波、テレビでは地球温暖化の影響もあったと言っていたが、まさか来年も奄美に雪が降る？▼寒いのが苦手な皆さんも、積極的に地球温暖化対策を。(つ)